

世界市民社会のリーダー候補としての学生に支援を！

大学生協連会長理事 庄司興吉

世界中が市民社会化してきているが、これには二重の意味がある。一つはブルジョワ社会化。市民社会化を推し進めたのは最初、金持ちの市民すなわちブルジョワで、資本の力を最大限に生かす資本主義のやり方で、世界中の王国や帝国をなぎ倒してきた。「社会主義」を掲げた「帝国」ですら、持ちこたえられなかった。

しかし、世界中がその市場となったグローバル化のなかで、一部の大資本が金融資本として異常に膨張し、資産経済を実体経済の数倍にも膨れあがらせて世界経済を混乱させている。2008年のリーマンショックに端を発する世界経済の危機はそれによるもので、今日の日本の学生の経済的困難もその結果の一部である。

これにたいして、市民社会化のもう一つの意味はシティズン社会化で、資本に雇われて働く労働者や女性や少数民族などが対等な政治参加を要求してきた結果、世界の多くの国で普通選挙の制度が採用され、社会のあり方・行き方が、一人一票制の原則のもと主権者としての市民、すなわちシティズンによって決められるようになってきた。高等教育を頂点とする市民社会の教育制度は、最初は資本のための労働力養成であったが、今日ではシティズンの育成を目的とするものになってきている。

学生はこの意味ではシティズンのリーダーである。今日の日本では大学教育がユニヴァーサル化してきているが、世界全体で見ればまだまだ高等教育の普及度は不十分であるから、できるところでは留学生も含めて多くの学生が育成されなければならない。そのためにも、経済的困難を抱える学生には支援が必要である。大学生協は、大学と協力して、全力を挙げて学生支援に取り組んでいきたい。

(『Campus Life』 23, 100526)